

第16回優秀論文賞選考理由

優秀論文賞選考委員会 丸川知雄

本論文は太平洋戦争のさなかに日本の占領下にあったフィリピンのレイテ島で、日本軍によるフィリピン人への暴力に関する言説の影にこれまで隠されてきたフィリピン人同士による暴力について記述している。

フィリピンに侵攻した日本軍は米軍が結成した抗日ゲリラや民衆の自警団の抵抗にあう。だが、抗日ゲリラは中小エリート層によって構成されていたのに対して、自警団は主に貧農層によって構成されており、後者は概して士気が低かった。そのことを日本軍は見抜き、これを逆に対ゲリラ戦に利用しようとした。実際、民衆の自警団は抗日ゲリラ組織から現金支給をあまり受けていなかったため、日本軍は対日協力的な中小エリートを通じて民衆たちを対日協力の側に寝返らせることに成功する。本論文ではレイテ島のいくつかの町に焦点を当て、そこのエリート層の間での親米抗日ゲリラと反米的・対日協力的な人たちの対立、そして後者によって小作人から警察官に引き立てられた人たちのことを書いている。こうした警察官たちが日本軍と行動を共にして対ゲリラ戦を戦い、ゲリラとの嫌疑をかけられた人々に対する拷問や処刑など数々の暴力事件を引き起こした。米軍上陸後、形成が逆転し、今度は対日協力的な民衆に対する暴力が蔓延し、警察官や準軍事組織に組織された人々は投獄された。対日協力したエリートたちも逮捕されて国家反逆罪に問われるが、証人たちとの裏取引によって無罪を勝ち取った。

本論文はフィリピンでの裁判記録、日本軍の残した文書、アメリカの諜報部隊CICの文書など数々の一次資料を駆使しながらも、非専門家の読者にも戦時下のフィリピンの情勢を理解し納得させるようなわかりやすい筆致で描かれている。フィリピン社会におけるエリートと民衆の関係や、民衆の不満が利用されたことが暴力の広まりにつながったことに説得力を持って明らかにしている。歴史研究、フィリピン地域研究として優れた論文として優秀論文賞を授与するにふさわしいとの結論に至った。

受賞の言葉

福島大学非常勤講師 荒 哲

この度、私の論文に第16回優秀論文賞が授与されました。自分に対してまさかこのような賞が与えられるとは全く予期しておらず、まずは丸川知雄委員長をはじめ、今回、論文の投稿から査読、そして刊行に至るまでお世話になりました担当編集委員や査読をされた諸先生方に感謝申し上げます。

フィリピンでは、日本占領時代がフィリピン史の中で最も暗黒で凄惨な時期として記憶され続けており、そのためか残酷な日本兵が住民たちを苦しめた最悪の時代としてのイメージが民衆間に定着しています。しかしながら、こうした日本占領に関する一般フィリピン人が抱く暴力的なイメージの一方で、20世紀の転換期における対スペイン・フィリピン革命や比米戦争時のアメリカによる暴力の記憶が封殺されており、私はこうした点から民衆の視線に立った日本占領史研究の必要性を感じるようになりました。今回この論文で、私は、日本占領下のフィリピンで多発した様々な暴力の類型の中で、名も無い貧しい民衆の間にくすぶり続けていた非対称社会是正へ向けたエネルギーによって生まれた暴力の存在が戦後、親米感情が定着したフィリピン社会において歴史上の記憶としてほとんど何も語られていない点を論じました。そして、今回この研究を通して、従来からのフィリピン史記述がこうしたくすぶり続けている民衆感情を史実として認識してこなかった点を強調しました。他の東南アジア地域と比較して、フィリピンにおける日本占領がフィリピン社会にもたらした影響は極めて限定的とされています。しかしながら、エリートがこの国の社会を掌握している一方で、貧しい民衆のくすぶり続けている感情が依然として多種多様な暴力を生み出している点に私たちは注意を向けなければなりません。日本占領期に高揚した民衆間の暴力こそが、現代フィリピン社会が抱える暴力の根源と言えるかもしれません。今後の研究では、過去の暴力と現代の暴力の連関性を論証し、例えば現在、ドオテルデ大統領が推進している反麻薬戦争に伴う暴力を過去の日本占領時代において組織化された準軍事組織による暴力と比較しながら、現代フィリピン社会の暴力の歴史的省察を行っていきたいと考えております。

最後に、私事になりますが、私は日本国内で一度も大学の常勤教員に就いた経験が無く、科研費申請のための研究者番号もありません。しかしながら、多くの研究仲間の有形無形の支援や励ましを受けながら何とか研究を進めることができました。また、2012年には福武学術文化振興財団、そして2016年には三菱財団より研究助成を受けたことが今回の論文作成へとつながりました。今回、この受賞にあたりお世話になりました全ての方々には心から感謝申し上げます。今後とも、ご指導いただきますよう切にお願い申し上げます。ありがとうございました。